のあるのコミュニケーションに

は、であるとはであり、や、の、のを、にするです。ろうは、をとして、のをためににきました。

しかしながら、のにやにおいて、はとしてものの、はろうがをためになであることや、ろうととがにきたのりなどにのは、いるとはです。

　また、であるをのあるのコミュニケーションは、、、、のなどにありますが、においては、のにじたコミュニケーションのとのがにされているとはず、そのとをにことができるのがいます。

　をには、をさんへのにされる「おもてなし」のがからあります。そのおもてなしのを、のにかかわらず、を、、やがあふれるまちづくりをするがあります。

　ここに、のあるものないもことなく、にとを、でことのできる、のないのにするため、このをします。

（）

　このは、としてのにのにのになコミュニケーションののについて、を、のに（をむ。じ。）のをにするとともに、そのにのっとったのについてことにより、のあるものないもことなく、にとを、でことのできる、のないのにすることをとする。

（）

　このにおいて、のにのは、にところによる。

　(１)　のある　、、（を。）、のののがあるであって、そのにより、にはになをにあるものをいう。

　(２)　のになコミュニケーション　、のの、、、な、、、のののあるがとをためのをいう。

（）

　にのは、はであることのの、のをであるとされることをとしなければならない。

２　のになコミュニケーションののは、のあるものないものをし、そのとをすることをとしてならない。

３　のあるがのにコミュニケーションをにし、することによりコミュニケーションをには、されなければならない。

（の）

　は、に（「」という。）にのっとり、としてのにのにのになコミュニケーションのののため、なをし、するものとする。

（の）

　は、にをとともに、のになコミュニケーションののにのにするようものとする。

（の）

　は、にをとともに、のになコミュニケーションののにのにするようめるものとし、びにのあるがのになコミュニケーションをにし、することができるようになをしなければならない。

（）

　、は、にするはを、にをし、のになコミュニケーションののにものとする。

（の）

　は、にのっとり、にをするものとする。

（１）としてののになコミュニケーションについて、のをための

（２）のあるがにおいてのになコミュニケーションをにし、することができるのの

２　は、のをするときは、のあるののを、そのをするようめなければならない。

（の）

　は、のをするため、なのをずるものとする。

　このは、のからする。

　このは、６４１からする。